

保育者養成における表現指導

—造形表現と身体表現による共創の場—

古屋祥子*¹・高野牧子*¹

要 旨

本稿では、A大学において実施した「保育内容（表現）」における授業実践の内容を報告し、特に造形表現と身体表現の双方の観点から表現行為への理解を深める活動実践に着目して、参加者の振り返りを分析した。その結果、今回の活動では、造形表現と身体表現の関係性の大きさが明らかになり、両分野からアプローチすることで、参加者の表現に対する固定的なイメージや苦手意識から離れるきっかけになり得ることが示唆された。保育士養成課程初年次の導入科目として、それぞれの表現領域の特性を理解しながら横断的に連関する学習が有効であることも明らかになったが、新たに、学生の知識理解と実践の間にはいくつかのプロセスが必要であることがわかった。素材体験・制作体験・美的体験などの経験値を高める取り組みの充実や、自由な表現のさまたげになるような潜在意識の更新など、今後の指導の留意点を検討することができた。

キーワード：造形表現、身体表現、保育者養成、保育内容（表現）

1. 研究目的

幼稚園教育要領の「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」領域であり、ねらいとして「(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」の3点が示されている。ここでは、保育者が子どもたちの心が動くような環境を構成し、そこから感じたことや考えたことを子どもなりに表現する方向性が明示されている。「主体的、対話的な深い学び」へと大きく教育方針が転換した現在においては、幼児の芸術教育においても、子どもが自ら考え、感じて表す、ゴールフリーの表現活動を実践できる保育者の養成が求められている。

しかし、幼児教育の現場では、様々な表現活動において、保育者がお手本や見本を示し、そのゴールに向かって指示的・画一的に活動を進めていく指導が多く行われている。造形表現指導の中では、ハサミや糊の使い方などの生活していくうえで必要な技能の獲得も活動の目的のひとつであるため、指示的・画一的指導をすべて否定するものではないが、このような指導に偏るのでは、子どもの主体的な表現は表れにくく、子どもの豊かな感性や表現する力を委縮させることにもなりかねない。子どもの内的必然性を尊重する、主体的で対話的な活動を実践できる保育者養成のあり方を検討することは、喫緊の課題である。

このような問題意識に対し、保育者養成校では「表現」領域における指導の検討が行われている。

(所 属)

*1 山梨県立大学 人間福祉学部

中山 (2018)、松井ら (2018)、藤井 (2019) が報告するように、表現の総合性や他領域との関連性を意識した授業の実践は多く、まずは保育者となる学生自身の感性を育むことに焦点を置きつつ、表現技能や実践力の獲得を目指している。また、吉野 (2020) は、学生の主体的思考を育てることを目指した教材開発型授業を実践し、子どもの非認知能力を育てるための造形活動の在り方について思考し創造する場を展開している。

これらを踏まえ、本研究では、子どもたちの伸びやかな表現を引き出すことのできる保育者養成を目指し、養成校としてどのような表現指導を行えばよいか検討することを研究目的とする。

2. 研究方法

A 大学において幼児教育・保育学を専攻する第 1 学年の授業を対象に実践内容をまとめ、学生による振り返りの内容を分析することにより、学びの成果を検証する。

- ・研究対象：A 大学 1 年次科目「保育内容（表現）」（演習 1 単位 7 回）
- ・参加者：上記授業履修者 31 名
- ・場 所：A 大学体育館
- ・調査方法：質問紙調査（授業後に Google Form にて回答）
- ・質問事項：
 - ①「壁に描く」のコーナーについて「表現を引き出す・引き出される」という視点から、感想を書いてください。
 - ②「床で描く」以下⑥の項目まで、上記質問と同じ
 - ③「透明シート」
 - ④「伸縮布」
 - ⑤「滑り止めシート」
 - ⑥「気泡緩衝材」
 - ⑦ 今日の活動全体を通して感じたことを自由に記述ください。以上のように、すべて自由記述方式で感想を求めた。

・分析方法：

- 1) 実際の活動の様子を写真や観察ノートに記録する。
- 2) 質問紙調査の回答を KJ 法により分析する。
- 3) 質問紙調査の回答を KHcoder による共起ネットワークにより分析し、各コーナーでの特徴を明らかにする。

3. 倫理的配慮

本研究は、参加者が履修している授業の一環として実施した。本研究のデータとする第 7 回授業の開始前に、参加者に対して、研究目的と意義、データの公表時のプライバシーの保護、公表するデータの内容、予想されるリスクと対処、研究成果の公表先、研究協力は自由意志であり、途中で辞退できることについて口頭にて説明し、同意を得た。

4. 結果および考察

(1) 科目概要

研究対象である1年次科目「保育内容（表現）」の授業は、美術担当の古屋と身体表現担当の高野の2名で指導を行った。

【科目の目的】

幼児の日常生活における様々な表現について、見出す力・受け止める力・共感する力を養うために、子どもの表現の発達について学ぶと共に、幼児期における「表現」することの意義について理解を深める。具体的には、身体表現や造形表現の基礎知識の理解や基礎的な実技を通して、履修者自身の想像力と表現力を高め、さらに舞台等の鑑賞を通して、その多様性と効果を理解し、分析する力を養う。

【到達目標】

(知識・理解)

日常生活における幼児の表現やその発達を理解し、説明することができる。

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

幼児期における表現の意義を認識し、幼児の表現を引き出す環境構成を計画することができる。

身近な素材を使い、工夫して表現することができる。

(態度・志向性)

幼児の表現について、共感することができる。

幼児の表現を支え、自分の感性を豊かにするために、多様な芸術を積極的に鑑賞しようとする。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション 幼児期の表現 身体性から考える（担当：高野）

第2回：身体表現の基礎的技能—型のある身体表現・型のない創造的な身体表現—（担当：高野）

第3回：子どもの表現を引き出す（担当：高野）

第4回：造形表現の発達（担当：古屋）

第5回：造形表現の基礎的技能 —リユース素材を活用した構成遊び—（担当：古屋）

第6回：絵画表現の基礎的技能 —子どもの表現を引き出す—（担当：古屋）

第7回：身体表現と美術表現 —痕跡を楽しむ—（担当：高野、古屋）

第1～2回は、幼児期の身体表現に焦点をあて、模倣や身体表現によるコミュニケーションについて実技を交えた演習を行うと共に、第3回では環境構成から子どもたちの表現を引き出す表現活動について国内外の事例を紹介した。

第4回では、子どもの造形表現に対する基礎的な考え方を学び、簡単な実技を通して自己表出としての表現についての知識を得た。第5回では国内外事例紹介と実技によって素材や環境構成から引き出される表現について学習し、第6回では子どもの描画表現への共感と理想的な大人の関わり方について考察をした。

第7回目では「身体表現と美術表現 —痕跡を楽しむ—」と題し、6つのコーナーを設定し、学生たちが主体的、実践的に表現活動を行い、その環境構成や活動内容について振り返りを行った。

【参加者の状況】

参加者は、A大学において幼児教育・保育学を専攻する第1学年の学生31名であった。男子学生8名、女子学生23名が所属しており、社会人を経験した学生はおらず、高等学校卒業後にA大学に入学した。本研究のデータ収集前に、教養科目として外国語や運動、情報機器の活用に関する科目を履修し、幼児教育や保育学に関わる専門科目としては、教職に関する基礎的な科目、保育内容に関する科目、乳幼児の発達に関する科目を履修していた。A大学入学前の保育現場での体験的学習については、中学校期の職場体験や高等学校期の授業の一環で数日間の体験をしたことがある者がいたが、全ての参加者が体験しているわけではなかった。A大学に入学した後は、サービスラーニングの形態で、隔週に1回、幼稚園や保育所、認定こども園に訪問し、観察実習や参加実習を行っていた。

(2) 授業概要

本研究では、第7回目の授業についてまとめ、学生による振り返りの内容を分析することにより、学びの成果を検証する。第7回目の授業の内容は以下の通りである。

【ねらい】 以下の3点とした。

- ・いろいろな表現を楽しもう
- ・動きの軌跡を楽しもう
- ・表現あそびを考えよう

【方法】 グループワーク（5～6人×6グループ）

【用意した素材・用具】 教員が事前に選び用意

大判色画用紙（グレー）、大判和紙、クレヨン、パス、透明シート、指絵具、バット、バケツ、雑巾、ブルーシート、新聞紙、養生テープ、ガムテープ、滑り止めシート（各色）、気泡緩衝材、折り紙

【コーナー】（ ）内は主な準備。

- ① 壁に描く（大判の紙を貼り合わせて壁に貼り付ける。クレヨン、パスを準備する。）
- ② 床で描く（大判の紙を貼り合わせ、ブルーシートの上に敷く。クレヨンを用意する。）
- ③ 透明シートに描く（バトミントン用の支柱を立て、透明シートを張る。指絵具とバット、手拭き用雑巾と手洗い用バケツを準備し、床養生用新聞紙を敷く。）
- ④ くしゃくしゃ伸縮布で遊ぶ（張る&袋）
（バトミントン用の支柱を立て、伸縮布を張る。袋状の伸縮布を消毒する）
- ⑤ カラフル滑り止めシートで遊ぶ
（大小の滑り止めシートを置く。遊び方を考える。）
- ⑥ 気泡緩衝材で音を楽しむ
（折り紙などを撒いた上に気泡緩衝材を敷き、養生テープで周囲を止める。）

< 体育館の場所設定 >

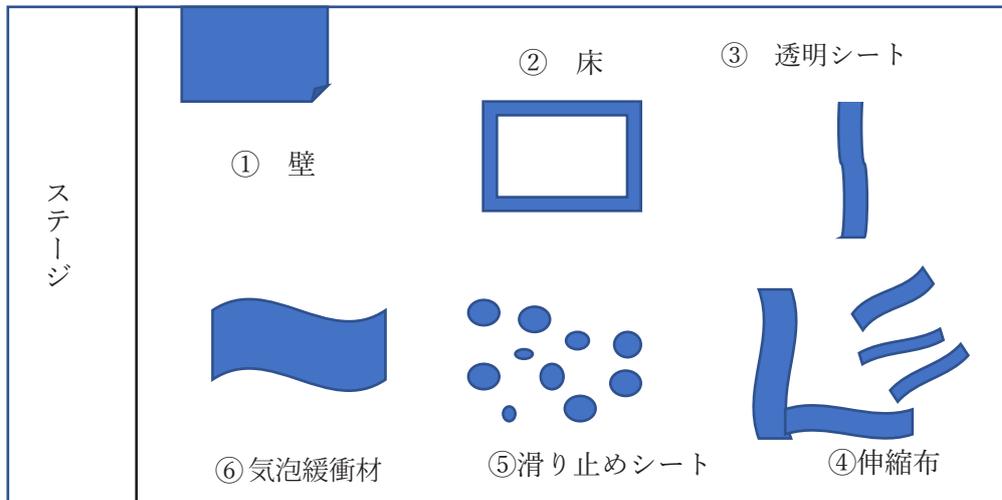


図 1

【授業の流れ】

- 5分 概要説明 グループ分け
 - 15分 各グループで1コーナー担当 準備を行う
 - 60分 各コーナー 10分ずつ (遊び方を考える—遊ぶ・表す—鑑賞する、移動)
 - 10分 片付け
- Google classroom に振り返り提出

(3) 実際の活動の様子と学生の振り返り

①壁に描く



大判のグレーの色画用紙を用意し、壁に自由に貼るよう学生に指示したが、壁に段差があったためか、用意した用紙の幅をつなぐ工夫や段差をまたぐような表現は見られなかった。紙の色のグレーに対して白などの明るい色の描画も期待したが、ほとんど見られず、身体を大きく使う表現や大画面を楽しむ様子も少なかった。一方で、個人でキャラクターを描いたり、線描きをしたりする様子が多く見られた。

事前の第3回授業では、子どもたちが壁に広く貼られた紙に、壁伝いに回りながら描く姿やクレヨンに紙をあてて倒れながら痕跡を残す姿など、即興的に描き、そこから創造性を育む方法も示しておいたのだが、そうした活動はほとんど見られなかった。

学生の感想には、「ジャンプしながら描き、その軌跡を楽しんだ」「友達と目をつぶって描いた」「偶然に生み出される面白さや楽しさを実感できて良かった」等の記述があり、友達と全身を使って痕跡

を楽しむような表現を試みたり、意見交換をしたりできたようである。

また、「大きな紙を前にすると普段よりすらすらと手が動くような感じがした」「グループのみんなで横に並んで一斉に絵を描くこともできて楽しかった」「普段は物を描くときに下を向いて描くが壁だと正面を向いて描くことになるので見える範囲が広がったような感じがした」といった記述からは、机上の小さな紙に描く描画行為との違いを感じ、紙の大きさと縦型の紙の向きがもたらす開放的な雰囲気や全体を俯瞰できる効果を感じ取ったことがわかる。

「落書きをしている気持ちがして、いつもは良しとされていないことができたので、思ったことを自由に書くことができた」「クレヨンの書き心地を楽しみながら表現することが出来た」というコメントからは、大学生にとっては落書きも非日常でワクワクするものであり、クレヨンも久しぶりに使うという状況であることがうかがえた。

さらに「人によってキャラクターを描く人もいれば、身長を測って描く人などがいた。また、目をつぶってお題の絵を描くといったアイデアを用いて遊ぶ人もいて遊ぶのも描かれた絵を見るのも楽しかった」というコメントからは、他の参加者の作品や行為を鑑賞する様子が見て取れ、「単純な落書きになってしまったしまったのでクレヨンだけでなく、水彩などのほかの道具が欲しかった」といった描画材に関するコメントもあり、よりアクティビティの高い活動にするための工夫について考えられた学生がいたこともわかった。

学生の振り返りを見ると、それぞれに学びがあり、童心に戻る楽しみや自由に壁に描けるという開放感を感じていたことがわかったが、成果物は概ね落書きに留まってしまったと言える。この原因として、壁の段差、貼る位置の低さ、参考となる海外事例の紹介が直前ではなかったこと等が要因として考えられるが、学生が描画や身体を大きく使うことにあまり慣れていないことや、壁への描画行為を普段やってはいけないこととして学習していることへの障壁も感じた。障壁を取り除くためのウォーミングアップや声かけ、体験の積み重ねの必要性が明らかになった。

②床に描く



大判のロール和紙をつなげ、大きな画面を作ったことにより、寝転んで描く、足の指にパスを挟んで描く、大きな手の振りの痕跡を残すなど、普段の机上の描画ではしない動きをしていた。

また、第3回授業でハンモックやバランスボールを活用して、動いた軌跡を描く活動の映像を視聴していたので、それを参考に男子学生の一部が友達のを抱えてぐるぐる回り、友達が軌跡を描いていた。

学生の振り返りには「寝転がって手を広げたり、人の形をなぞるなど、自然に表現が引き出された。前転や側転をしながら描いていた人もいて、工夫して表現を引き出すこともできた。走りながら描いたり、転がりながら描くのも不規則な模様ができて、楽しむことができた」などのコメントがあり、動作と連動した痕跡としての描画の面白さに気付いたようであった。

また「クレヨンを足で挟んで描いたり、寝転がって体のラインをかたどったりと普段の画用紙ではできないような体験ができて新鮮でした。表現というのは限界はなく、工夫を凝らせば様々な形で描くことができるのだなど改めて実感しました」などのコメントが多く、大きな画面に誘発されて開放

的になるのと同時に、普段と違う描画のスタイルを試し、さらなる展開に可能性を感じていることがわかる。

「私は後半でこの遊びを行ったため、すでにたくさんの絵が描かれていた。それを模倣することが多かったのだが、他の人の模倣することも表現を引き出す上では必要だと思った」というコメントからは、活動としてはやや消極的に見える場合でも、全体を俯瞰したり他者の模倣をしたりする中での学びがあったことがうかがえる。

③透明シート



生花などの梱包用として販売されている透明シートをバトミントンの支柱に張り、指絵具を用意した。指絵具の感触を楽しみつつ、2人のペアがシートを挟んで両側に立ち、手を合わせてスタンプをしたり、一緒に動かして絵の具の伸び方を楽しんだりする様子が見受けられた。

学生の振り返りからは「透明シートを使うことは今まであまりないことなので、透明シートに描く前から楽しそうだなと感じていた。また、絵具も普段は手に付けたりすることがないので、手に付けたときの感覚を楽しむことができた」

「汚したくない手の平全部を使って描くのは普段しないことなので、発想力が引き出されました」などの、目新しい素材に対する躊躇や期待と、素材体験自体を楽しんだと思われる記述が多くみられた。また「たわむシートだったので、他の人との協力が重要である点が面白かった」「自分が描いた方よりも反対から見た方が綺麗に見えるなど裏から見れることの発見があった」「透明になっていることで、絵の具の色だけでなく光などの当たり具合で色が変わったりなど、色々な色を使って表現したいと思えるような活動で、楽しかった」といったコメントからは透明シートの特性を理解しながら遊びの展開に活用したり、美点を発見したりできていたことがわかる。さらに「二人で両側から同じ動きをしながら描くことで、動きの楽しさも感じる事が出来ました。また、透明なシートであることを生かして、両側からの見え方の違いからさらに表現を発展させていくことが出来ました」といった記述からは、身体の動きとの連動や友達との協働による表現の展開や楽しさを感じ取れたことがうかがえる。

④伸縮布



伸縮布はバトミントンの支柱等を利用して横に2枚張り、袋状になった伸縮布も数枚置いておいた。張られた布を押す、引く、突く、揺らす、身をゆだねる等の動きが出ていたが、多様な身体部位で押すといった子どもたちが楽しむような動きは出てこなかった。一方、ちょうど光が差し込んでいたので、横に張った布は影絵のスクリーンのような役割も果たし、手で犬やうさぎ、キツネなどを作って影絵を楽しむ姿があった。

また、袋状の伸縮布にも興味を持った学生は、中に入り、伸びたり縮んだりを楽しんだが、造形的な表現までは発展しなかった。

初めて触れる素材に対しての戸惑いを感じられ、思い切り伸縮布を使って表現するには至らなかった。以前に、絵本『もこ もこもこ』の読み聞かせをしながら、行った学生たちでは、足等でも伸ばす、手ではじく、頭や顔を突き出す、かぶる、捻じる、うづくまる等、より多様な動きが出現したので、遊ぶための手掛かりが必要であったと考えられる。

⑤滑り止めシート



青、赤、黄、白の4色で大小の円に切られた滑り止めシートは、床において指定した色だけを渡っていく、ジャンプする、跳び越える、ツイスターゲームのように指定された色に右手や左足を置いていく等の動きが見られた。また、丸い形状をピザに見立てて回す、軽いので投げ上げる等も考え付いて、遊ぶ様子も見られた。

見立てて遊ぶという発想力は独創的な試みだったと評価できるが、シートを利用して表現するより、運動遊びの要素が強く、走・跳の運動や投動作、柔軟性等が高める運動

遊びに終始していた。

学生の振り返りには「滑り止めを一齐に投げて、その様子をスマートフォンのスローモーションで撮影して表現を目に見えるように残すこともできた」との記述もあり、動画の特殊撮影機能を使い、映像表現として記録するという展開ができた学生もいたことがわかる。

⑥気泡緩衝材



気泡緩衝材はロール状の長いものを用意し、粒の小さいもの（約1cm）と、やや大きいもの（2.5cm）の両方を新聞紙や折り紙の上に敷き、ずれないように養生テープで周囲を止めた。

体重がかかると、緩衝材が割れ、プチッと音が出ることを楽しむことができる環境構成である。学生たちは、粒の違いによる音の違いを楽しんだり、目をつぶって足の裏の感覚を楽しんだりした。また、わざと大きな音を立てるにはどのような歩き方ができるのか

探求したり、音が出ないように歩くことを競い合ったりしていた。この他、折り紙の部分だけを踏む、走り抜ける、ゆっくり進む等、音を楽しみつつ、活動を行った。

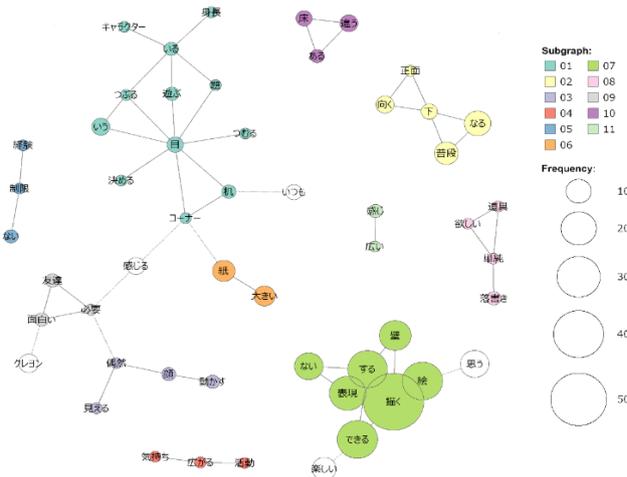
つまり、気泡緩衝材は、音や皮膚など五感を刺激し、身体感覚を引き出すことができる場であった。しかし、動きとしては、つま先立ちや踵歩き等、歩き方の工夫はみられたが、多様な動きは出てこなかった。例えば、氷の張った川に見立てたり、忍者になって鳴き廊下を進んだり等、指導者側がよりイメージしやすいような言葉かけや場面構成を伝えることにより、より多くの身体表現が生み出せたのではないかと指摘できる。

学生の振り返りからも「感触を楽しんだり、どうすれば音が大きくなるかや小さくなるかなど多面的に表現を捉えることができた。動くスピードや強さも影響してくるので、考えて動き、体験するの

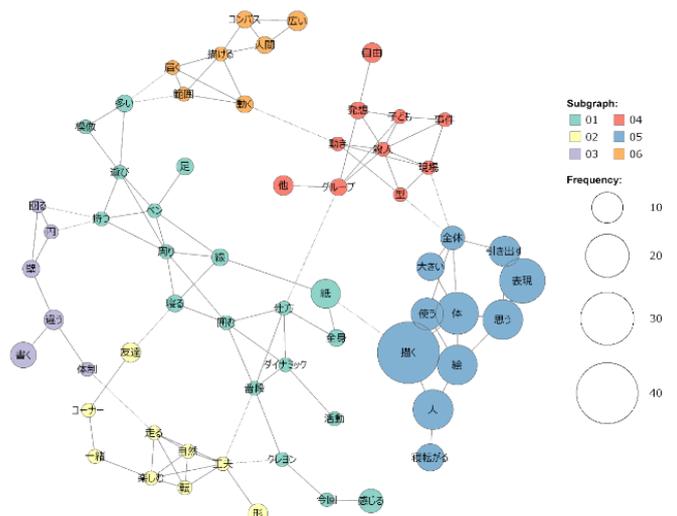
が楽しかった」「目を瞑って足の感覚だけで進むのは面白いと感じた。足だけでなく天井や通路などを作って垂れ下げたりすればもっと様々に五感を使ったのでは無いかと考える」といった感覚に関する記述が多く見受けられ、改良のためのアイデアも挙がっていた。

(4) 質問紙調査回答の共起ネットワークによる分析結果

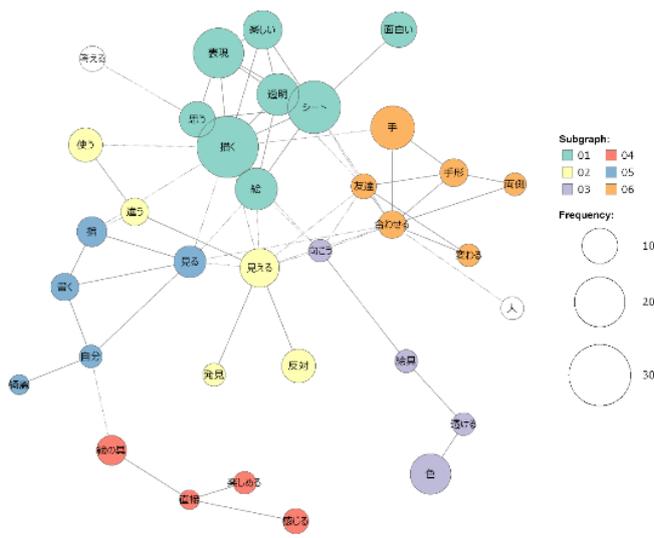
① 「壁に描く」 共起ネットワーク



② 「床に描く」 共起ネットワーク



③ 「透明シート」 共起ネットワーク



①～③は「描く」ことを主とした表現活動である。

学生たちの感想を具体的に共起ネットワークで分析すると、「壁に描く」についての感想では、絵、描く、表現するが強い関係性を示し、そうした行為ができることと楽しいと感じていることが示された。

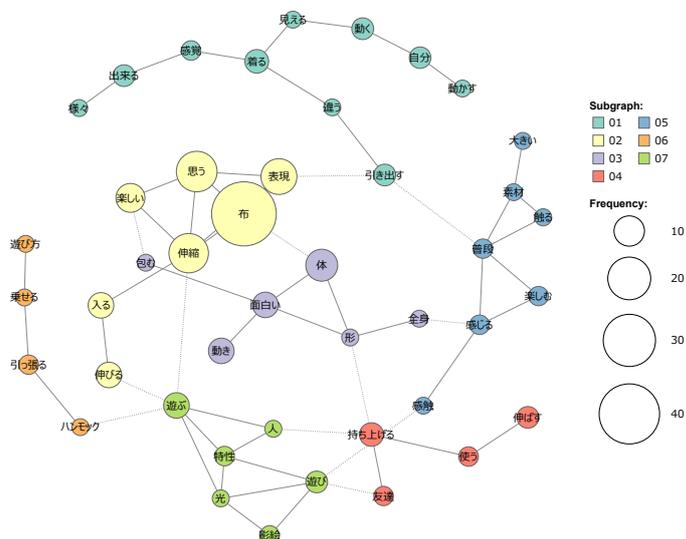
「床に描く」では、描く、絵、体、使う、大きい、表現、引き出す等が強い関係性を示し、全身を使って大きく絵を描くことが引き出されたと感じている学生が多いことが示されている。

一方「透明シート」では、描く、表現が楽しい、面白いとも結びつき、手、手形、友だちとも繋がっている。また、絵具、色についても透けると関わりながら、多くの学生が記述したことがわかる。透明であることで、見る、見えることと発見が結びつき、発想、引き出されるの関係性も見出ししている。

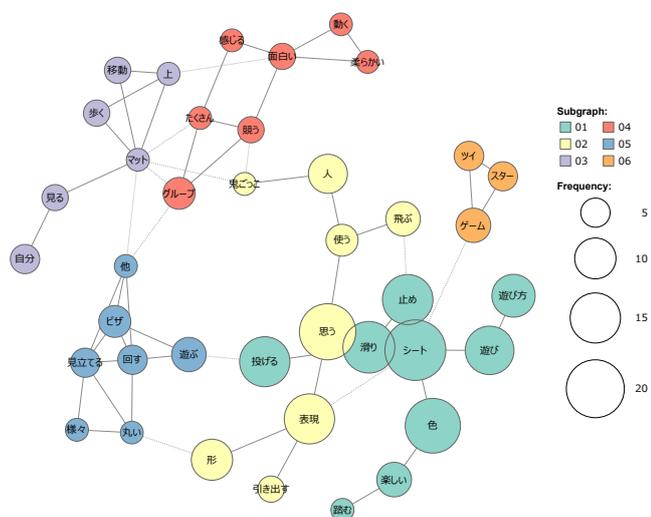
同じ描く行為であっても、壁、床という空間性の違いにより、床一面の紙は壁より全身を使っての表現を引き出すのに役立つと考えられる。

また、透明シートでは、両側から向き合うことで、友だち同士で表現を楽しむ活動が引き出された。さらに、両側からシートを挟んで見る行為が促進されたと指摘できよう。絵の具を手で塗る行為で、手や指がより意識化されるとともに、色の混ざり具合や光を通した色についても感じている結果となった。

④ 「伸縮布」 共起ネットワーク



⑤ 「滑り止めシート」 共起ネットワーク



親しんでいない様子がわかる記述が見受けられた。また、「落書きはやってはいけないこと」「手のひらを汚したくない」などの、アクティブに描画行為を行うのに妨げになっている潜在意識があることもうかがえた。

共起ネットワークによる分析結果からは、全ての項目において、身体に関わる言葉と描画などの行為に関する言葉、感情に関する言葉が強く結びついていることが明らかになり、身体表現と造形表現が大きく関わっていること、表現活動が感性の教育に深く関わっていることが示された。

また、造形表現、身体表現の双方からアプローチすることで、固定的なイメージや苦手意識から離れるきっかけを得た様子が見られ、「自由に表現を楽しむ」という、子どもの芸術表現にとって重要な要素を損なわない指導ができる人材育成という観点において、有効性を見出すこともできた。

(6) 今後の課題

考察で挙げた学生の潜在意識や経験値の問題を解消していくためには、まずは学生自身が開放的で自発的な活動の面白さを体感する必要性があり、様々な素材体験や美的体験を多く味わう場を設定し、心も身体もほぐしていくプロセスが必要であることがわかった。具体的には、実践の体験を積む中で、表現に対する苦手意識や羞恥心などのマイナスの心的要因を和らげる声かけや、活動内容の工夫が必要であろう。また、限られた授業時間の中で多くの実体験を積むことには限界があるため、活動の実践に加えて振り返りや鑑賞にも多く時間を取り、学生が感じた反省や活動の意義が実感のこもった学びとなるよう今後の指導で心掛けたい。これによって柔軟に物事をとらえる資質を身に付けると共に、子どもたちの伸びやかな表現を促す環境設定について意識を高めていくことが重要であると考えられる。

また、小学校の表現系の授業科目においても、遊びや環境と結び付けた内容の充実が求められる現在、今回のような素材を用いた遊び方や空間を考案して実体験するという活動は、幼小連携の観点からも学ぶ要素が多い。今後も学びの連続性を意識した、より充実した表現指導を保育・教育現場で実践できる人材育成のために、指導内容の検討を続けたい。

引用・参考文献

- ・文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領<平成29年告示> フレーベル館
- ・尾崎公彦, 青井則子, 入江慶太, 伊藤智里, 伊達希久子, 小合幾子 (2018) 「幼稚園教育要領改訂に伴う保育内容領域「表現」に求められる授業内容に関する考察: 新しい教職課程のモデルカリキュラムとの比較を通して」川崎医療短期大学紀要 38号 pp55-61
- ・中山里美 (2018) 「総合的・横断的に領域『表現』を学ぶ授業の取り組み」富山短期大学紀要 第54巻 pp83-93
- ・松井典子, 高橋仁美 (2018) 「身体表現と音楽表現の融合を目指して」滋賀短期大学研究紀要第43号 pp.131-142
- ・藤井美津子 (2019) 「保育者養成校における表現指導の取り組み—授業の実践と学生の記録の分析から表現の深まりを目指して—」滋賀文教短期大学紀要21号 ,pp1-18
- ・吉野泰男 (2020) 「学生の主体的思考を育てる造形教材開発」植草学園短期大学第21号 ,pp.89-101
- ・荒島 智子 (2018) 「幼小接続を視野にいたした幼児『表現』活動の探求—保育者養成校の教育実践分析—」 京都造形芸術大学こども芸術学科『こども芸術と教育』創刊号 pp53-71

Instruction of artistic expression in childcare worker training —Creational place through formative arts and physical performative arts—

Shoko Furuya^{*1}, Makiko Takano^{*1}

Abstract

In this paper, we report the contents of the lesson practice in "Childcare content (artistic expression)" conducted at University A, and pay particular attention to the activity practice to deepen the understanding of the expression from the viewpoint of formative arts and physical performative arts. Then, we analyzed the reflections of the participants. As a result, in this activity, the magnitude of the relationship between formative arts and physical performative arts becomes clear, and by approaching from both expressions, it can be an opportunity to move away participants' fixed impression and awareness of weakness on the artistic expressions. As an introductory curriculum for the first year grade of the childcare worker training course, it became clear that cross-sectionally related learning while understanding the characteristics of each expression is effective. But thereby, it turns out that some process is needed between students' knowledge understanding and practice. We got points to consider for future instruction, such as enhancing efforts to material experience, production experience, and aesthetic experience, and renewing the subconscious mind to prevent free expression.

Keywords :

formative arts, physical performative arts, childcare worker training, Childcare content (artistic expression)

(Affiliation)

* 1 Faculty of Human and Social Services, Yamanashi Prefectural University